

(案)

2020年3月2日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

国内外のオープンアクセス・オープンサイエンス推進のための戦略提言について

2020年度の活動として、国内外の学術情報流通に係る動向や各ステークホルダーのポジションペーパーを基にした、オープンアクセス・オープンサイエンス推進のための戦略を取りまとめる。

○ これまでの活動

- 各ステークホルダーの目指すこと、目指すことに取り組む上での課題、他のステークホルダーに望むこと、個別でやっているだけではうまくいかないこと、どのステークホルダーも未着手なこと等を、現に活動している立ち位置から列挙した、ポジションペーパーを作成した。

○ 今後の作業スケジュール

2019年度中に、どのような成果物をどのような体制で目指すかを確定する

- 2020年2月頃(第2回):各ステークホルダーの準備物と世界的な動向を俯瞰したマップを用意して、今後のまとめ方について意見交換

2020年度は、これまでの情報共有及び意見交換を基に、提言を作成する

- 2019年度の審議に基づき、各ステークホルダーの情報の加筆・修正等(再整理)を行う
- 委員長等と事務局で、提言(案)を用意する
- 2020年8月頃(第1回):提言(案)について意見交換
- 2020年9月～(メール審議):提言の完成に向けた意見交換
- 2021年2月頃(第2回):提言の完成

→web上で公開する他、2020・2021年度にSPARC Japanセミナーを開催する

(参考:2019年度第1回学術情報流通推進委員会のご発言要旨)

- 本委員会が想定する提言は、各ステークホルダーが抱えている課題を、将来的に解決するためのものと位置付ける。誰宛(向け)といった想定はひとまず置いておき、自分たちの実務に基づくボトムアップ的な提言とする。
- 各ステークホルダーの目指すこと(活動の方向性)、他のステークホルダーに望むこと、どのステークホルダーも未着手なこと、個別でやっているだけではうまくいかないこと等を、現に活動している立ち位置から列挙する(箇条書きで良い)。
- そうした作業を経てポートフォリオを組んだ上で、重なる部分をすり合わせたり、抜けているところを確認したりする。その前提として、出版社等も含めた学術情報流通に係る世界的な動向を把握しておき(マップを作成する)、それに照らし合わせて日本の置かれている状況を整理する。